

経験・記録作りからの 後継者の育成



木更津工業高等専門学校
技術長 立石 友二

背景

- 今年度 技術長になって
- 先輩技術長・
技術職員が行ってきたことの確認
- 教室系職員・実習係から組織化され

木更津高専の位置



木更津工業高等専門学校



本科

- ・ 機械工学科 (S. 42)
- ・ 電気電子工学科 (S. 42)
- ・ 電子制御工学科 (S. 58)
- ・ 情報工学科 (H. 2)
- ・ 環境都市工学科 (S. 42)

技術職員数 (H. 25. 4. 1)

14名	
技術長	1名
専門員	1名
専門職員	10名
技術職員	2名

専攻科 (H. 13)

- 機械・電子システム工学専攻
- 制御・情報システム工学専攻
- 環境建設工学専攻

木更津高専 教育研究支援センター沿革 (技術教育支援センター)

- 教室系技術職員・実習係からの組織化
- 技術職員数の変化
 - 技術職員セミナー(技官セミナー)
 - 記録作り(年報)
 - 支援センター運営(各グループ)
 - 公開講座
 - in木更津

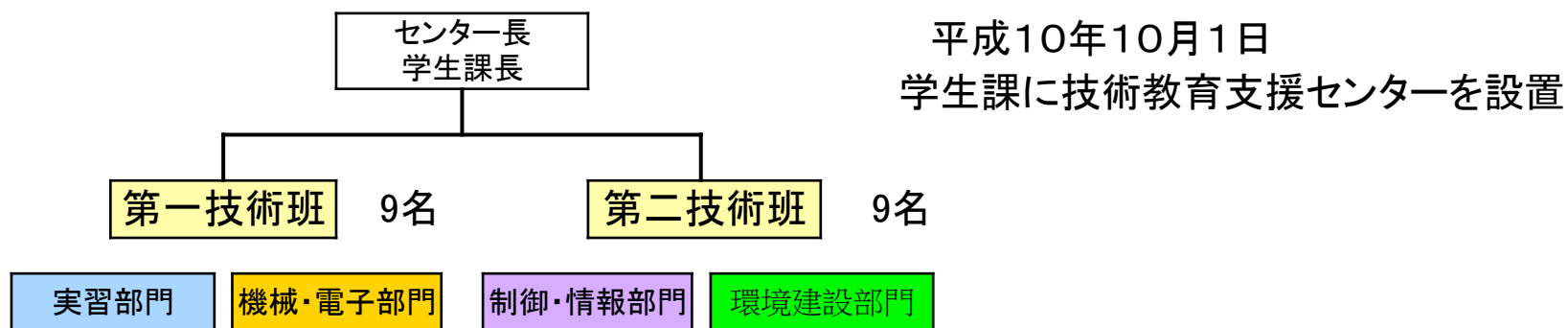
後継者の育成

- 組織として
 - グループの運営
 - 公開講座
 - 記録作り
- 教育研究支援・地域貢献

教室系技術職員・実習係から組織化

技術教育支援センター組織図

平成11年4月1日から



平成10年10月1日

学生課に技術教育支援センターを設置

平成11年度 非常勤 3名
平成12年度 非常勤 2名
平成13年度 非常勤 1名

世話人会 6名
(実習係1名 各学科から1名)

技術職員セミナー等の開催
平成10年9月29日

年報発行
平成12年度

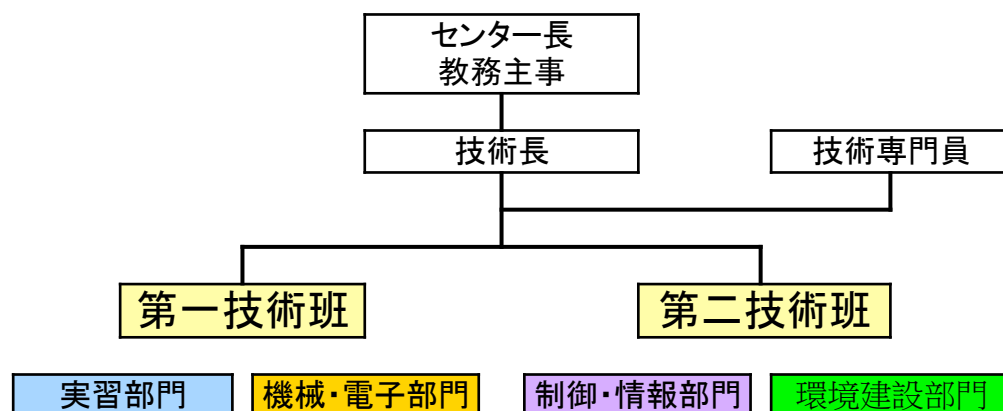
年齢構成(平成10年度末年齢)

・60～55歳	0名	・54～50歳	0名
・49～45歳	4名	・44～40歳	2名
・39～35歳	2名	・34～30歳	2名
・29～25歳	6名	・24～20歳	2名

組織化されてからの10年

教育研究支援センター組織図

平成21年4月1日～



公開講座の開催

in木更津の開催(第1回 平成22年3月)

年齢構成(平成21年度末年齢)

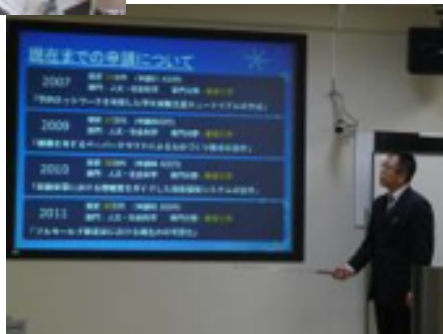
・60～55歳	4名	・54～50歳	2名
・49～45歳	1名	・44～40歳	1名
・39～35歳	5名	・34～30歳	2名
・29～25歳	0名	・24～20歳	0名

後継者の育成 (組織)

- 経験
 - ・支援センターの取組み
 - ・グループの運営
 - ・公開講座 担当
- 記録作り
 - ・まとめる → 年報
 - 発表・報告
 - ・考える → 応募

記録作り(技術職員セミナー)

第1回 平成10年9月29日



技術職員の日々携わっている技術研鑽のための取り組み

教育研究支援の中で得られた成果などの紹介

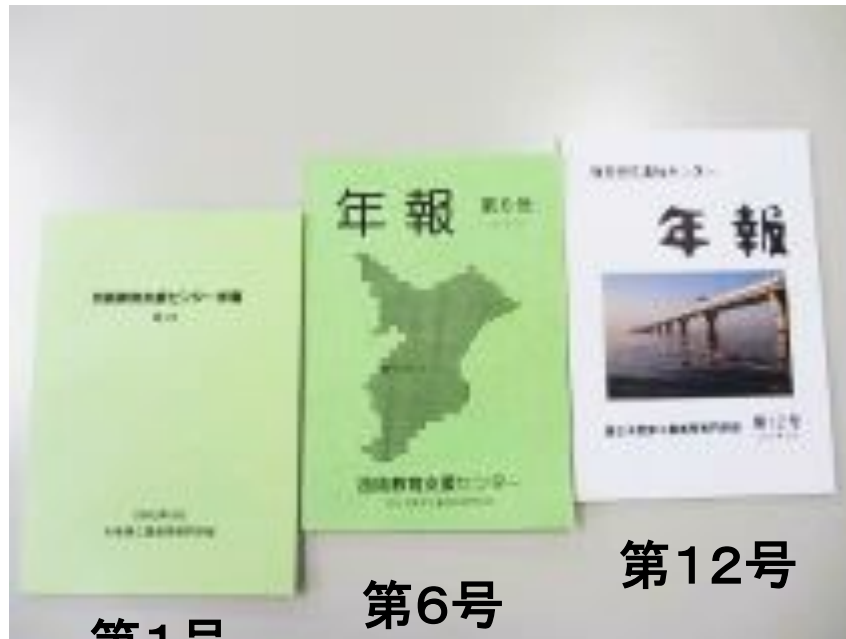
教員による講演

外部講師を招いた講演

技術職員セミナー

記録作り(年報)

技術職員の行っている
活動成果をまとめる



第1号 2002年3月発行

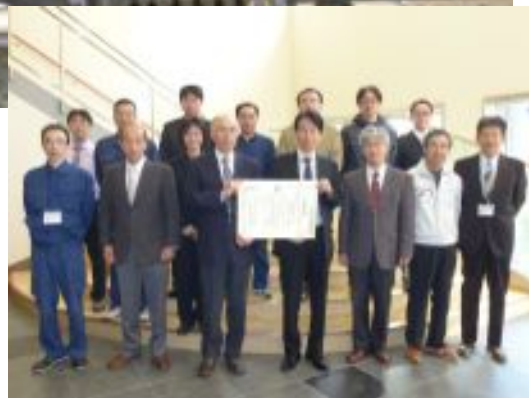
- 第1号
研究活動報告
教育に関する報告
研修報告
- 第12号
事業報告
教育に関する報告
研究活動報告

支援センターの取り組み・運営 (公開講座・奨励研究)



- 平成17年から
毎年5講座程度実施
- 公開講座を行うことで受講生
より多くを学ぶことができる
- 奨励研究採択への取り組み

支援センターの取り組み・運営 (高専技術教育発表会)



- 平成21年度から実施
- 高専の技術職員、日常業務で携わっている広範囲な技術、教育研究支援活動、日常の技術教育指導での工夫や苦勞などについて、発表・意見交換を通じて技術職員の資質の向上と技術教育の充実を目的として実施

教育研究支援センター室できて

- 支援センター室発足当初

(センター内での役割を明確にするため)

総務グループ

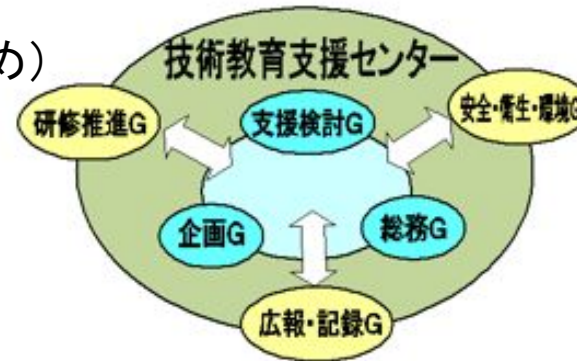
企画グループ

安全・衛生・環境グループ

研修推進グループ

広報・記録グループ

支援対策検討グループ

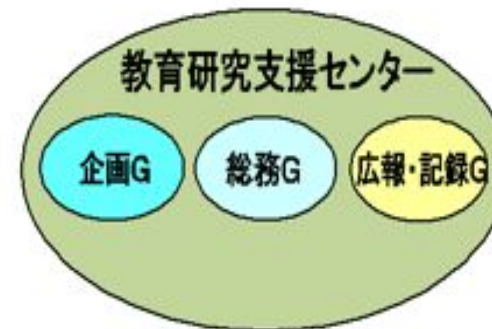


- 2012年 より

総務グループ

企画グループ

広報・記録グループ



後継者の育成

(教育研究支援・地域支援)

- 常勤勤務者

教育研究支援

地域支援



定年退職

再雇用(短時間勤務)

年齢構成(平成25年度末年齢)

・60～55歳	1名	・54～50歳	2名
・49～45歳	2名	・44～40歳	5名
・39～35歳	1名	・34～30歳	1名
・29～25歳	2名	・24～20歳	0名

経験できること

- グループの運営から
- 発表・報告
技術職員との交流
刺激し受けられる
- 地域貢献
出前授業、公開講座
- チャレンジすること

まとめ

- 経験したことは、話しができ大きな自信となる
 - 周りから刺激は、意識改革になり、チャレンジすることで、多くを学ぶことが出来る
 - 記録作りをすることで、自己啓発つながる
 - 組織は、少しずつ形を変えながら、作っていく必要がある
-
- 自分自身がいろいろな経験をすることで、後継者を育てることにつながる

